

評価日時：令和8年4月2日

会議名称：総務委員会

開催場所：ものづくり実験実習棟 多目的室

目的：令和7年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の自己点検内部評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	内部評価	評価理由
1. プログラムの履修・修得状況	A	令和4年から実施され、履修率は100%となっている。令和7年度の教育プログラム修了認定率は87.8%であり、昨年度の85.1%から上昇している。
2. 学修成果	A	授業担当者及び教務委員会によって履修・単位修得率の状況が把握されている。
3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	A	履修生に対して授業アンケートが実施され、教務委員会においてアンケート結果が分析されている。アンケート結果から、学生の内容の理解度に問題はないことがわかる。
4. 学生アンケート等を通じた後輩等ほかの学生への推奨度	A	新入生オリエンテーション等を利用して入学生に周知している。また、授業アンケート結果を学内掲示板にて公開することで学生への推奨が行われている。
5. 全学的な履修者数、履修率向上にむけた計画の達成・進捗状況	A	履修率は100%であり成果を達成しているといえる。ただし、修得状況には改善の余地がある。

S:審査項目の観点を上回る成果を達成した。

A:審査項目の観点通りの成果を達成した。

B:審査項目の観点通りの成果を達成に至っておらず、改善の余地がある

奈良工業高等専門学校 数理・データサイエンス・AI教育プログラム R7年度 自己点検評価（リテラシーレベル） [内部評価+外部意見（運営諮問会）]

評価日時：令和8年4月2日

会議名称：総務委員会

開催場所：ものづくり実験実習棟 多目的室

目的：令和7年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の自己点検内部評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	内部評価	評価理由
6. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	—	令和8年3月時点で認定された学生の最高学年が3年次で、令和8年3月時点で修了生がいないため
7. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	B	運営諮問会外部委員より「『学習成果』の記載に『学んだことを自ら説明でき、それを応用できる』などを付け加えてはどうか」、「より強化されてはどうか」、「限られた時間でどのような育成方法をとられているのか」との意見があった。
8. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	A	運営諮問会外部委員からは特に異論はなかった。
9. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	B	運営諮問会外部委員より「授業アンケートからどのように改善を図るのか」、「他の授業の内容との関連性は考慮されているのか」、「課題はどのような観点で設定されているのか」との意見があった。

S：審査項目の観点を上回る成果を達成した。

A：審査項目の観点通りの成果を達成した。

B：審査項目の観点通りの成果の達成に至っておらず、改善の余地がある